

**アカスジカスミカメの発生が今後増加することが懸念されます。
カスミカメムシ類の密度を低下させるため、出穂10～15日前ま
でに水田畦畔や雑草地、牧草地の草刈りを必ず実施しましょう。**

現在の状況

- 1 7月上旬の水田畦畔すくい取り調査（39圃場）では、カスミカメムシ類の発生圃場率は平年に比べてやや低い（図1）。
- 2 圃場周辺にカスミカメムシ類の発生源となるイタリアンライグラス（写真）などのイネ科雑草のある場合、カスミカメムシ類がすくい取られる割合が高い（図2）。
- 3 イネ科主体の牧草地では、7月第3半旬からアカスジカスミカメの第1世代成虫の発生が認められている（図3）。
- 4 7月17日頃からの約1週間は高温になると予報されており（7月12日、仙台管区气象台発表）、アカスジカスミカメ第1世代の羽化盛期は平年より早まり、今後発生量が多くなることが懸念される（表1）。

防除対策

- 1 水稻出穂期に本田内へ侵入するカスミカメムシ類の密度を低下させるため、水稻の出穂10～15日前までに水田畦畔や農道の草刈りを必ず実施する。なお、水稻の生育は7月10日現在、ほぼ平年並である。
- 2 地域内にイネ科雑草が残されていると、カスミカメムシ類の発生源となり近隣の圃場に侵入するので、草刈りは地域一斉に行う。
- 3 本田内のノビエ、イヌホタルイ、シズイ等の雑草は、アカスジカスミカメの発生源となって被害を招く恐れがあるので、これら雑草がある圃場では本田内の除草を徹底する。

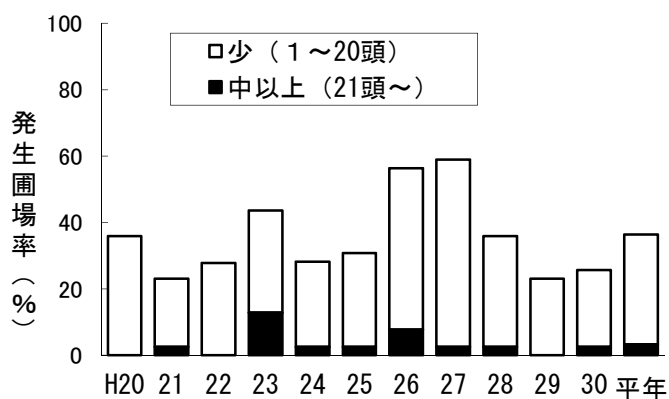


図1 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生圃場率
（7月上旬巡回調査、水田畦畔、往復20回振）



写真 イタリアンライグラスに寄生する
アカスジカスミカメ(成虫)

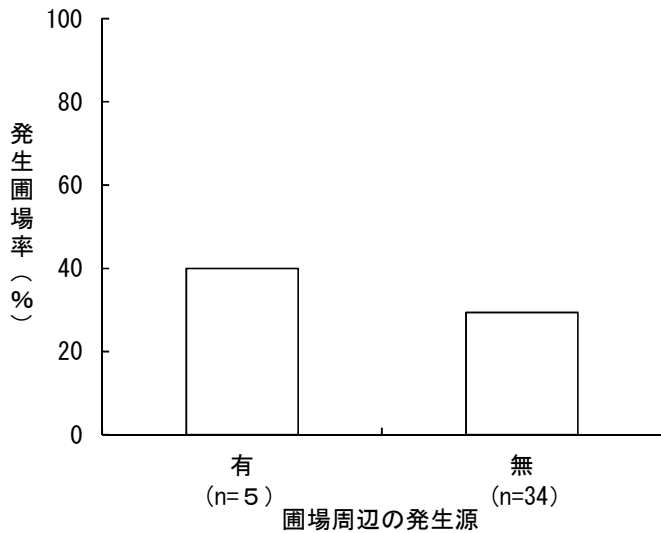


図2 水田（圃場）周辺における発生源の有無とカスミカメムシ類の発生圃場率との関係（7月上旬巡回調査、水田畦畔、往復20回振）

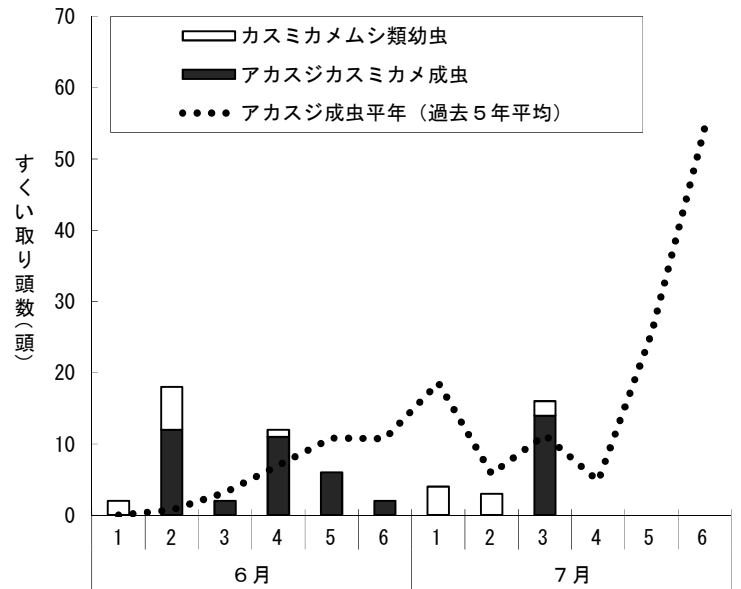


図3 牧草地におけるアカスジカスミカメ成虫及びカスミカメムシ類幼虫の発生推移（7月第3半旬現在、農研センター内イタリアンライグラス作付圃場、往復20回振）

表1 アカスジカスミカメ第1世代の発生予測

年次	アカスジカスミカメ第1世代		
	ふ化盛期	羽化盛期	産卵開始
平成30年	7/4	7/20 (予測)	7/25 (予測)
平年	7/8	7/23	7/29
(参考) 平成29年	7/11	7/24	7/31

※7/12までは北上におけるアメダス現況値、7/13～16まで平年値、7/17以降は平年値に2.4℃を加算（7/12 仙台管区気象台発表、異常天候早期警戒情報【東北地方】を参考）して算出。

☆現在、農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)☆

【利用上の注意】

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://i-agri.net/Index>